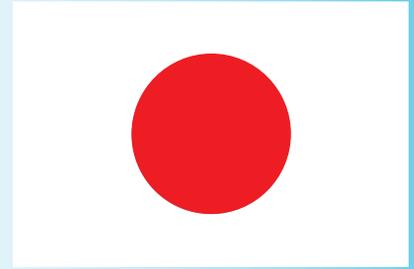


## こどもの日

こども

こどものけんりをそんちょうし、せいちょうを  
おいわいするきねんび

おとな



日本

「端午（たんご）の節句は中国から伝わった行事です。

端午の「端」は「はじ / 初」の意味で、元来は月のはじめの

「午 / うま」の日のことをいい、5月5日に限ったことではありませんでした。

午（ご）と五（ご）の音が同じということで、毎月5日を指すようになり、やがて五が重なる「5月5日」を重五の日と呼び、一般的なものとして定着していきました。この日は邪気を払う「厄よけ」の意味があり、薬草である「菖蒲」を軒に吊したり「菖蒲の湯」に浴したことから、「菖蒲の節句」とも呼ばれます。武家時代になると、菖蒲はその音から「尚武」（＝武事・軍事をとくとぶこと）に通じるということで男の子の尚武的な気性を養成する日として、盛んに祝うようになりました。江戸時代にはいと、幕府が5月5日を重要な日として定め、それを機に、武家では男の子が生まれた時に、目印として、屋敷の門前に、馬印（うましるし）や幟（のぼり）を立てて祝うようになりました。それが、のぼりを揚げることを許されない庶民たちが、それに代わって「鯉のぼり」をあげるようになりました。鯉は中国の竜門伝説から、子どもの立身出世の象徴とされました。そして、男児が誕生した家では、「この家の子をお守りください」と天の神に守護を願って、その目印として盛んにあげられるようになったのです。

鎧兜が飾られるようになったのは、それ以降のことで、戦場で身を守る鎧や兜は、武家にとって大事なもの。そこで、子供に災いがふりかからず、無事に逞しく成長するようにとの願いを込めてこいのぼりと共に、鎧や兜も飾られるようになりました。

## 家族と作ろうフラッグこいのぼり

ドアノブにかけたり、壁に飾ります

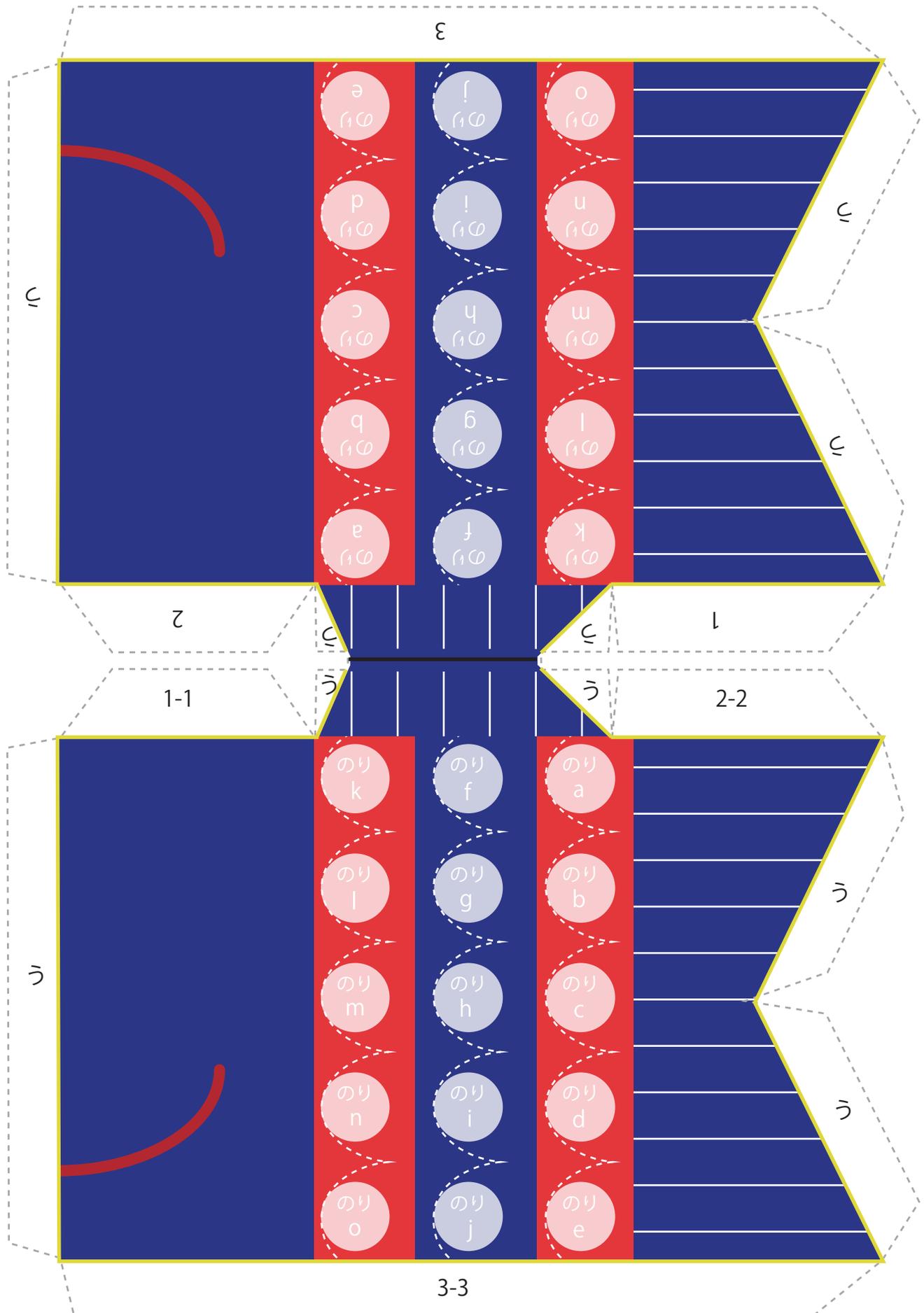
### 用意するもの

はさみ、ノリ、ほそいひもかりボン

### 組み立て方

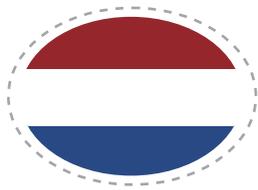
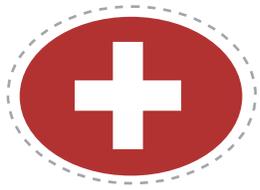
1. ----- の周りを切りましょう
2. きいろのせんをやまおりしましょう。
3. う→うらにノリを付けほんたいにはります。
4. せびれのくろいせんをやまおりにし  
1は1-1、2は2-1、3は+3-1 とはりあわせましょう。
5. aからじゅんばんにてんせんのいちにノリをつけてウロコをはります。  
しろのめを、くちのうえあたりにはり、その中にくろのめをはりましょう。
6. せびれの部分にひもかりボンをとおしできあがり
7. 中にトイレットペーパーのしんを入れると立体的になります。



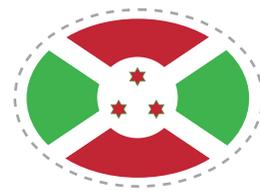


## コイのぼりボディ

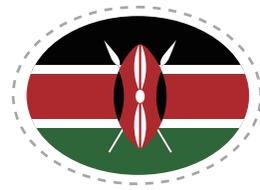
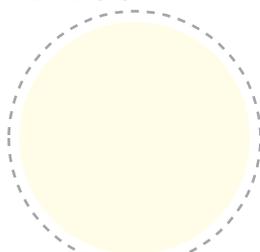
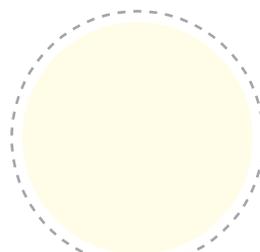
2/3



コイノボリのしるし



コイノボリのしるし



コイノボリの  
くろ目



ウロコフラッグとコイのぼりのめ  
てんせんのまわりをはさみできりましょう。